

# 「平成29年度 給食研究会」報告書



【期 日】 平成29年6月5日(月)  
【会 場】 メートプラザ佐賀  
【主 催】 佐賀県保育会  
【参加者数】 176名



## 【内 容】

①講義 10:00～10:20  
「基調報告」 指山 健次郎 (佐賀県保育会 会長)

②平成29年度給食研究発表  
10:30～11:15 (発表)  
11:15～12:00 (講評)

[発表者] 武雄地区 (志久慈音保育園)  
鹿島地区 (アソカ保育園)  
南部地区 (本應寺保育園)

13:00～16:00  
講義 「乳幼児の食育でめざすもの」  
堤 ちはる 氏 (相模女子大学 栄養科学部 健康栄養学科 教授)

## ①『基調報告』

講師 指山 健次郎 (佐賀県保育会会長)

- 1、保育を取り巻く状況
- 2、保育所は命を育み、学ぶ意欲を育てます。



## ②平成29年度給食研究発表

武雄地区（志久慈音保育園） 調理師 岩瀬 尚美

### ◎テーマ「笑顔あふれる思い出給食」

- ・感謝の気持ちは教えて身につくのではなく、美味しい給食を提供し「美味しかった、また作ってね」という自然な感情の動きから身についていく。子どもたちに美味しいものを食べてもらいたい一心で年に一回の「ハンバーグ計画」に向けて取り組みを行った。
- ・栄養面、コスト、アレルギー反応ばかりを気にしている現状があるが、美味しいと感じてくれる子どものことを考え、何度も試作、試食を行ってから提供した。

### <まとめ、課題>

- ・年長児は「すごいね」など反応が良かったが、年中、年少児には見た目が大人っぽくなってしまったせいか反応が薄かった。
- ・環境設定や事前準備、子どもへの声かけなど保育士と、もっと連携を取るべきだった。
- ・これで終わりではなく、次年度は「出汁」に注目し取り組みを行う。



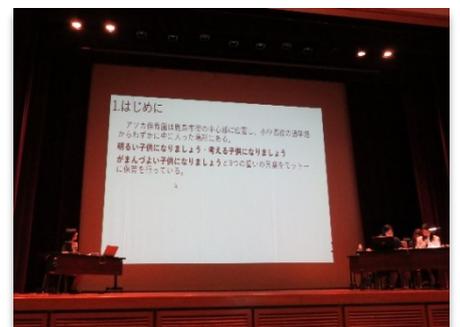
鹿島地区（アソカ保育園） 栄養士 鶴田 亜希

### ◎テーマ「育つ不思議さ・育てる尊さ・食べる嬉しさ」

- ・20数年前にプランターでの稲作りに取り組んだことが、園での食育活動の始まりで現在は年間を通して野菜作りや味噌作りなどを行っている。
- ・子ども・保護者・地域の協力のもと、田植え・稲刈り・じゃがいもの植え・収穫などを行っている。
- ・味噌作りは年4回行っている。すべて給食で使用している。また、年長児は親子での味噌作りを行い、できた味噌は卒園記念品にしている。

### <まとめ、課題>

- ・活動を通して園児・保護者の食育への興味は深まっている反面、朝食の欠食も増えている。どうやって伝えていくべきか考えさせられる。
- ・今後も食育年間計画を通し、保育士と連携を取りながら育つ不思議さ・育てる尊さ・食べる嬉しさを伝えていきたい。



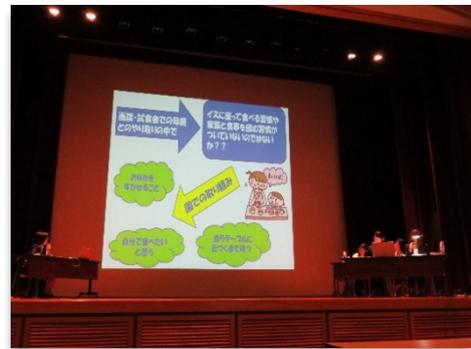
南部地区（本應寺保育園） 栄養士 馬場 恵子

◎テーマ「0歳から始まるていねいな食事」～食べる意欲を育てるための取り組み～

- ・食育活動は園の食育目標「楽しく食べる子どもを育てよう」で作成した食育計画をもとに園全体で取り組んでいる。
- ・食育活動を行う上で最も大切なことは職員間（給食担当と保育士）の連携であり、共通理解することである。

<まとめ、課題>

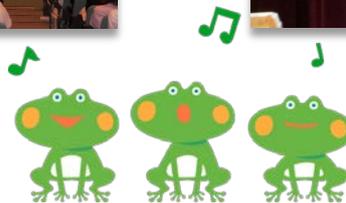
- ・事例紹介の中にある共通した思いは保護者を尊重すること、決して否定をせず肯定的に伝えることの大切さである。ていねいな関わりは子どものみならず保護者へ伝わる。その先にあるのは、子どもの最善の利益である。
- ・職員の入れかわりがある場合、更なる意識の統一が求められる。話し合いを重ね問題点を解決すべくコミュニケーションを多くとっていく必要がある。



## 講義「乳幼児の食育でめざすもの」

講師 堤 ちはる 氏（相模女子大学 栄養科学部 健康栄養学科 教授）

- ・乳幼児の食生活は心と体の健全な育ちにつながる。食事が楽しく心地良いと本能が満たされる。「すぐできる、すぐやってもらう」を目標として取り組まず長期的な見通しを持って関わる。保護者の子どもへの関わりを否定せずできたことを誉め認める。保護者も認められると自信を持ち子育てが楽しくなる。
- ・保育所における食育とは保育内容の一部であり、保育所全体で取り組む課題である。目的を明確にすることが大切であるが、調理・栽培活動などのイベント的な取り組みは手段のひとつであり、目的ではないということを踏まえる。保育所の食育目標は「食を営む力」の基礎を培うことである。
- ・乳幼児の食育でめざすもの→「子どもの心とからだの健全な育ちのために」
  - 1, 成長、発達を保障すること
  - 2, 食を営む力の基礎を培うこと
  - 3, 人間（親子）関係を含めた生活の質の向上
- ・栄養士、調理師が置かれる立場を考える。自園調理をしている優位性に基づき保育所全体の取り組みとして食育をとらえる。子どもたちの食を見つめ、時には食事中のみならず、活動している子どもたちの姿を見ながら食育の大切さを伝えていく。おいしい食事をおいしく食べること、大人が見本となり子どもの食への意欲を高める。それは子どもの将来につながる望ましい食習慣を形成する上で最も大切なことである。



### (効果及び評価)

保育所における食育とは、そこにたずさわる大人（保育士・給食担当者・看護師・保護者など）のすべてが中心にいる子どもの育ちを見守ることにある。互いに協力しコミュニケーションを取り尊重すること。今ここに生かされている命の尊さを感じ食とは、食育とは何か？長期的な見通しを持ち関わるべきである。

給食研究会という名であるが、保育所全体で考えるべき課題であるため、今後もっとより多くの保育所職員に研修の機会があればと思う。

文責：杉の子保育園 松江 恵子